



株式会社上坊工業

2023 年度 環境経営レポート

(対象期間 2023 年4月1日～ 2024 年3月31日)



作成日： 2024年7月17日
更新日： 2024年7月31日



目 次

項 目	ページ
ごあいさつ	3
環境経営方針	3
組織の概要	4
事業・製品の紹介	4
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	5
主な環境負荷の実績	6
環境経営目標及びその実績	6
環境経営計画の取組結果とその評価	7
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	11
緊急事態対応訓練	11
代表者による全体の評価と見直し・指示	12
これまでの環境活動の紹介	12



□組織の概要

(1) 名称及び代表者名

株式会社上坊工業

代表取締役社長 上坊 昭博

(2) 所在地

本社・工場 大阪府河内長野市上原町5 2 9 番地

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 取締役事務長 上坊 真由美 TEL：0721-52-3562
 担当者 取締役事務長 上坊 真由美 TEL：同上

(4) 事業内容

ピーリング・ベアリング部品加工

(5) 事業の規模

売上高 371 百万円 (2023年度)

		本社・工場
従業員	名	23 名
延べ床面積	m ²	1283.94 m ²

(6) 事業年度

4 月 1 日 ~ 3 月 31 日

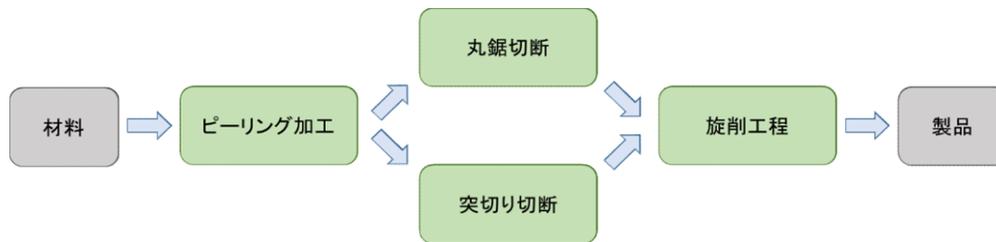
□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名：株式会社上坊工業
 対象事業所：本社・工場
 活動：ピーリング・ベアリング部品加工

□事業や製品(商品)の紹介

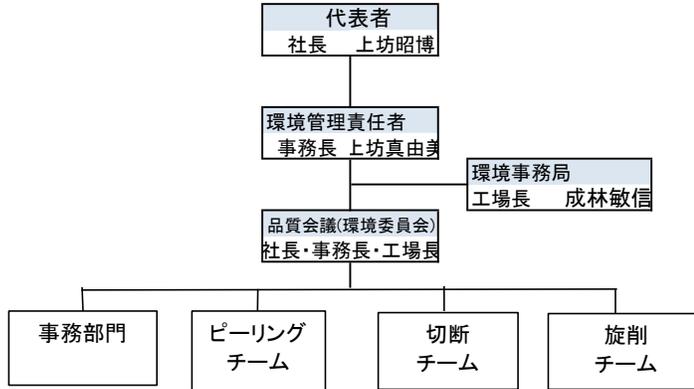
部品の製造工程において旋削工程にのみ効率化を求めるのではなく、材料からピーリング加工→切断→旋削を一貫対応することにより、さらなる効率化を追求。これは日本国内でも唯一の先進的な取り組みとして、取引先であるベアリングメーカーから高い評価をいただいております。

特にピーリング加工は、自社で加工するベアリングレースの精度向上を目的に、「精度・真円度・変形差・曲り」にとことんこだわった高精度な加工を実現しています。私どもがピーリング加工を施した長尺材は、超大型建機のパネ材、大型工作機械のボールネジ、航空貨物輸送機のシャフトやF1マシンのエンジン部品にまで採用されており、精密部品加工の材料として大きな可能性を有しています。



□環境経営組織図及び役割・責任・権限表

更新日：2023年10月23日



	役割・責任・権限
代表者(社長) 上坊昭博	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 環境管理責任者を任命 環境経営方針の策定・見直し 環境経営目標・環境経営計画書を承認 代表者による全体の評価と見直し、指示 環境経営レポートの承認
環境管理責任者 事務長/上坊真由美	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 環境経営目標・環境経営計画書を確認 環境活動の取組結果を代表者へ報告 環境経営レポートの確認
環境事務局 工場長/成林敏信	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐、品質会議(環境委員会)の事務局 環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 環境活動の実績集計 環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境経営レポートの作成、公開(事務所に備え付けと地域事務局への送付)
品質会議(環境委員会)	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営計画の審議 環境活動実績の確認・評価
部門長 工場長/成林敏信	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境経営方針の周知 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 試行・訓練を実施、記録の作成 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□主な環境負荷の実績

項目	単位	2021年	2022年	2023年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	170,384	263,763	251,003
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	トン	1,940	2,200	2,100
産業廃棄物排出量	トン	139,580	276,480	240,980
水使用量	m ³	220	263	274

※二酸化炭素排出係数 0.318 kg-CO₂/kWh 電力会社の調整後の係数

□環境経営目標及びその実績

項目	年度	基準値 (基準年)	2023年		評価	2024年 (目標)	2025年 (目標)
			(目標)	(実績)			
電力による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	149,212	171,594	156,595	○	143,243	141,751
	基準年度比	2019年	115%	105%		96%	95%
	原単位	kWh/千円	1.507	1.734	1.326	○	1.447
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	16,282	24,423	22,640	○	15,794	15,631
	基準年度比	2019年	150%	139%		97%	96%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	165,494	196,017	179,235		159,037	157,382
一般廃棄物の削減	kg	2,300	2,139	2,100	○	2,139	2,070
	基準年度比	2019年	93%	91%		93%	90%
切粉等の廃棄物削減	kg	155,170	263,789	240,980	○	124,136	108,619
	基準年度比	2019年	170%	155%		80%	70%
水道水の削減	m ³	203	254	274	×	187	183
	基準年度比	2019年	125%	135%		92%	90%
化学物質の適正管理	kg	2,388	2,508	1,453	○	2,197	2,150
	基準年度比	2019年	105%	61%		92%	90%
環境に配慮した生産活動		行動目標(次項による)					
一貫加工の推進と加工技術向上		行動目標(次項による)					

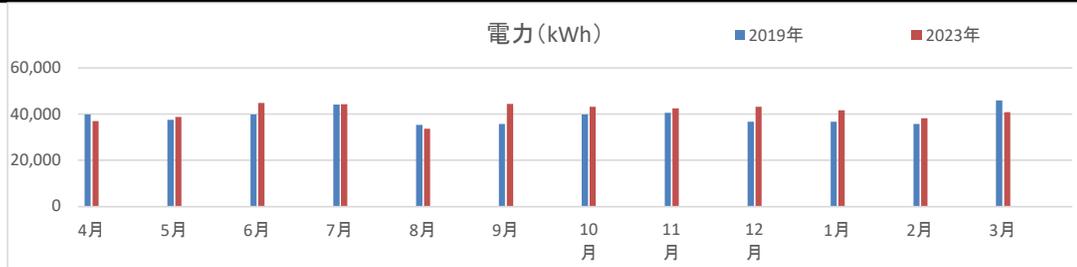
※灯油を削減目標としない理由：使用量が少量の為

□環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

数値目標：○達成 ×未達成

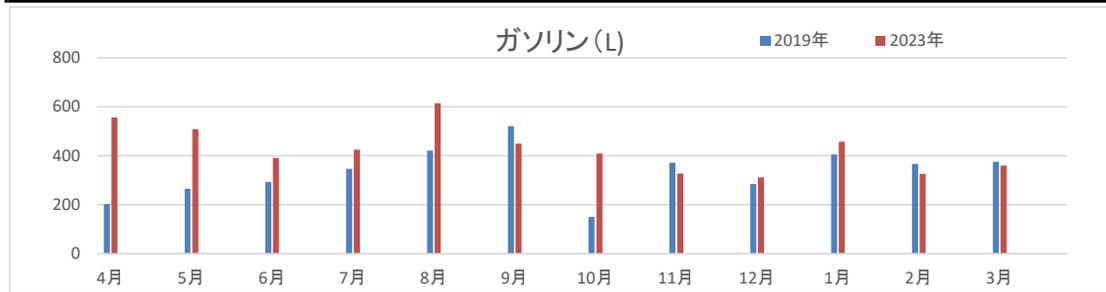
活動：◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	目標115%に対して、2023年度は最終的に104.9%で着地。 無理をせず、メリハリをつけたエネルギー使用が浸透してきている 手応えを感じている。 2024年度は基準年度を2023年度とし、2023年度比98%を目標とする。
・事務所・工場などの不必要時の消灯	○	
・使用頻度の低い施設での使用時のみの点灯	○	
・空調の適温化(冷房28°C程度、暖房20°C程度)	○	
・空気圧縮機の低圧化	○	
・空気圧縮機のエア洩れ点検(ISO9001と連動)	△	

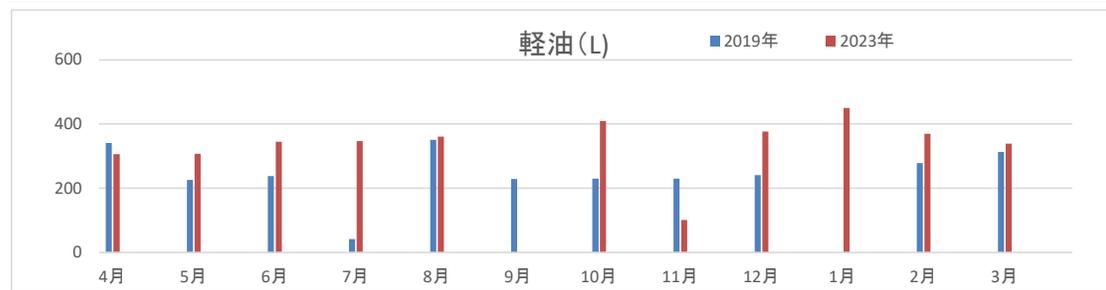


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2019年	39,862	37,593	39,848	44,086	35,404	35,737	39,841	40,447	36,704	36,704	35,796	45,954
2023年	36,982	38,763	44,921	44,207	33,676	44,383	43,228	42,469	43,228	41,594	38,182	40,804

自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	目標150%に対して、2023年度は最終的に139.0%で着地。2024年度は基準年度の見直しを行い2023年度とする。2023年度比98%を目標とする。
・エコドライブなど運転方法の配慮	○	
・発注・輸送（納品・引き取り）の計画化・平準化	△	

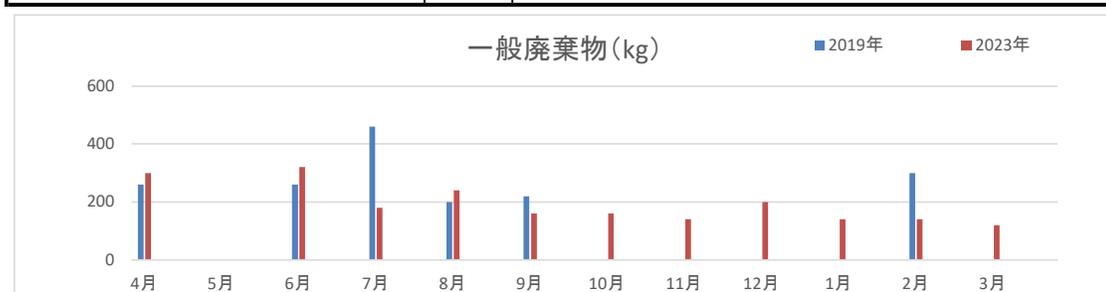


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2019年	202	266	291	346	420	522	151	372	284	406	366	376
2023年	557	508	391	425	615	450	409	328	312	457	326	360



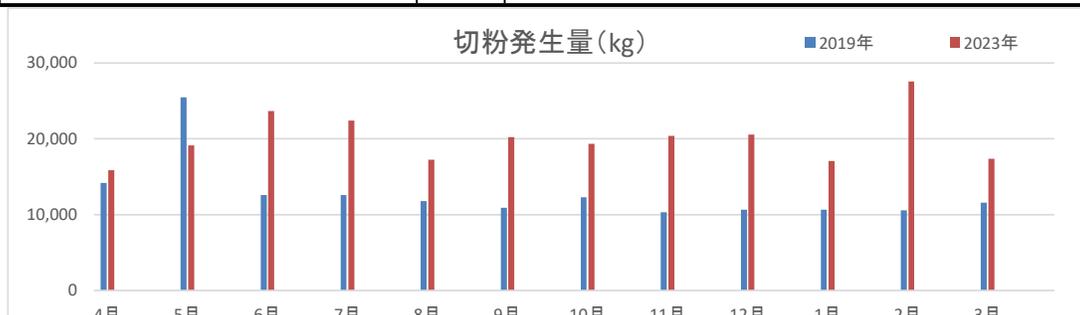
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2019年	341	225	237	42	351	228	230	230	240	0	278	313
2023年	306	307	344	347	360	0	409	101	377	450	370	339

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	目標96%に対して、2023年度は最終的に91%で着地。ゴミ削減に意識も高まってきた。2024年度は基準年度を2023年度とし、2023年度比96%を目標とする。
・会議時等でのペーパーレス化	○	
・工業用雑巾の古着再利用	○	
・3S（整理・整頓・清掃）活動を実施	○	



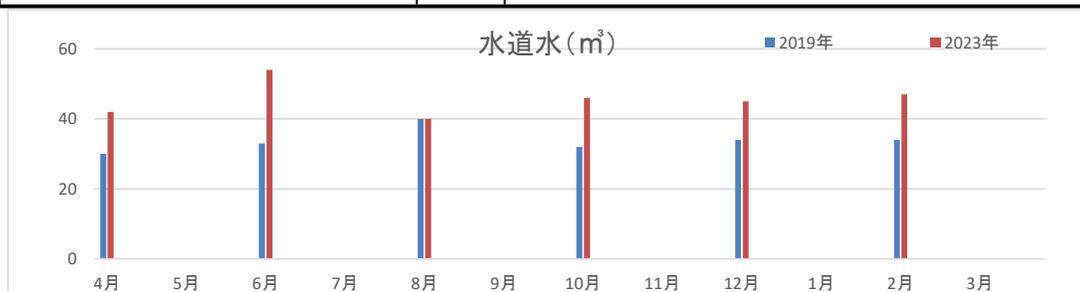
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2019年	260	0	260	460	200	220	0	0	0	0	300	0
2023年	300	0	320	180	240	160	160	140	200	140	140	120

切粉等の廃棄物削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	2023年度は2019年度比155.3%で着地。2023年度の目標であった170%は大幅に下回る結果となった切粉等の削減については、「売上の増加」が結果的に切粉量の増加となるケースが多く自社努力では対応できない要素も大きい。 2024年度は基準を見直し2023年度比98%とする。
・材料取りや設計の見直し	△	
・生産工程の歩留まり向上	△	
・加工ミスによるロス削減	○	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2019年	14,160	25,450	12,570	12,610	11,820	10,910	12,300	10,330	10,670	10,670	10,560	11,590
2023年	15,870	19,140	23,660	22,440	17,240	20,220	19,370	20,390	20,580	17,120	27,570	17,380

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	2023年度は2019年度比134.9%で着地。2023年度の目標であった125%は未達であったが、1/4半期以降節水の意識が高まり、定着してきたと感じている。2024年度は基準を見直し2023年度を基準に98%を目標とする。
・節水呼びかけの表示	○	
・日常的に節水を励行	○	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2019年	30	0	33	0	40	0	32	0	34	0	34	0
2023年	42	0	54	0	40	0	46	0	45	0	47	0

化学物質の適正管理	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	特に新たな製品の利用は無かった。新たな製品についてはSDSを取得の上、適正管理・適正使用をおこなう。使用量は2023年と同程度を目標とする。
・化学物質のSDSによる管理	○	
・「化学物質リスクアセスメント」の実施による安全対策	○	
・代替物質の検討	△	

取組紹介欄

環境に配慮した生産活動	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・材料取りや設計の見直し	○	預り資産(鋼材)の適正管理のルールを策定し、取引先に通知を行った。結果、不回転材の引上げ等につながった。
・生産工程の歩留まり向上	○	
・加工ミスによるロスの低減	○	
・危険化学物質の代替物質の検討	○	

取組紹介欄



新工場建設前の様子(不回転材や要廃棄物であふれていた)



完成した新工場。不回転材や要廃棄物がなくなり工場敷地内の整理整頓が進んだ。

一貫加工の推進と加工技術向上	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・ウェブサイト上に環境活動情報を提供	△	ウェブサイトの更新は手つかずで情報発信に活用したい。取引先からの加工依頼に対して、生産工程の工夫によって受注を得るなど企業価値の向上に努めている。
・「事業再構築補助金」への取組	○	
・生産工程の見直しと働き方改革の実施	○	
・生産機械の改造		
・SDG'sの社内啓発		

取組紹介欄

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

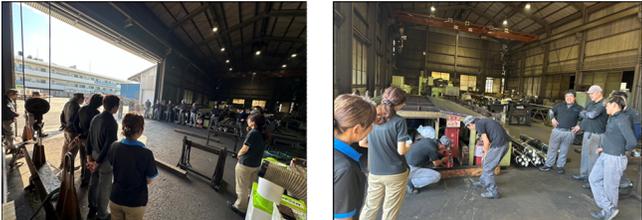
適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	産業廃棄物（廃油・汚泥）
騒音規制法	空圧機
フロン排出抑制法	業務用空調機
騒音規制法	空圧機、集塵機
労働安全衛生法	SDS義務のリスク評価
自動車No x ・ P M法	4 ナンバートラック
NTNグリーン調達基準	納入部品
消防法（危険物）	圧縮アセチレンガス・LPG等
その他の要求事項	顧客監査、アンケート

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
 なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□外部からの環境上の苦情・要望等

特にありません

□緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定： 火災の発生	
■実施日： 2023年9月4日実施	■実施場所 本社工場内
■参加者： 社員全員	
■実施内容： <input checked="" type="checkbox"/> 通報訓練 <input checked="" type="checkbox"/> 消火訓練 <input checked="" type="checkbox"/> 避難訓練 （2023年9月4日実施分） 朝の朝礼時に、①消火器の設置場所の確認及び使い方のデモ ②緊急事態発生時の緊急停止ボタンの位置の確認	
■評価：	手順書の変更の必要性 <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
前年度に続き2023年9月4日の朝礼時に社員全員で訓練を実施。消火器の位置確認、緊急事態発生時の停止ボタンの確認、ブレーカーの位置や落とし方などを再度確認し全員で共有した。	
■実施状況の様子	
	

□代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2024年7月17日

【前回の指示への取組結果】	
◇環境方針 【前回の指示】課題とチャンスに関わる方針を再検討する。→【取組結果】再検討の結果、方針を継続 ◇環境経営目標・環境経営計画 【前回の指示】課題とチャンスに関わる方針を変更した場合は目標内容も変更する。環境経営に関わる当社独自の評価指標について検討を行う。→【取組結果】新工場建築など変動要因も多く「当社独自の評価指標」引き続き検討 ◇実施体制他 【前回の指示】次年度からは現場担当者に管理をゆだね、進捗状況を社内で共有し経営に活かしていく。→【取組結果】体制そのものに変更なし。各部署の現場担当者を指名	
<情報>	<見直し・指示>
◇自社を取り巻く環境問題の変化 （社会的情勢、利害関係者の要求等） 取組み初年度であり、自社の現状把握とその対応を行う	◇環境方針 変更なし。 2020年10月1日制定が最新版 課題とチャンスに関わる方針は引き続き継続する。
◇環境経営目標・計画の達成状況 2022年中に新工場が完成した。またLPガスの空調システムの導入など大きな変化があった。2023年度は一年を通じてのデータを集める事が出来た。	◇環境経営目標・環境経営計画 従来の環境経営目標の項目に加えて、LPガスの使用量についても2023年度の利用実績に基づき目標設定を行う。
◇その他 ・利害関係者からの苦情・要請等 ・環境上の問題点等	◇実施体制他 変更なし。 次年度からは現場担当者に管理をゆだね、進捗状況を社内で共有し経営に活かしていく。
2021年9月15日のエコアクション21の認証を取得しました。取得のためのATCグリーン化プログラムへの参加や、取得に必要な取組を進める中で、環境に対する意識が高まり、新工場建築に向けた社内プロジェクトが始まりました。	
新工場建築に向け事業再構築補助金に挑戦し、2021年6月に採択を得て、2021年度内にスタートさせ、永年の課題であった工場敷地内に長年に渡り放置されていた大量の不回転材の撤去を実現し、撤去場所に建築予定地を確保しました。2022年4月に新工場を完成させました。新工場建設を機に、工場全体の加工工程を見直し効率的なレイアウトを実現、今まで取組む事が出来なかった小型・軽量化の一貫加工を推進しています。また、労働環境の改善と環境に配慮した燃料の使用の観点から「旋削工場棟」にLPガス空調を7月に導入、新工場にも11月に導入しました。	
電力使用の多い太径の加工依頼の増加に加え、新工場の建築、機械の増設、人員の増加(エコアクション取組み時18人→現在23名)などの影響から電気使用量は増加しています。2023年度は暫定的に2019年度を基準とし目標設定を行い計画実施しました。2024年度は2023年度の実績をもとに目標数値の見直しを行います。	

環境経営方針	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり
環境経営目標・計画	<input type="checkbox"/> 変更なし	<input checked="" type="checkbox"/> 変更あり 基準年度の変更
実施体制他	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり

□これまでの環境活動の紹介

・今期の取組み

- ① 下記記載の「利用時のみの電気利用の徹底」に加えて、電気スイッチや水道周辺にエコアクションの取組を掲示。冷房箇所の扉の開閉の意識付けなど実施。今まで以上に、従業員の節電や節水の意識の向上に繋がった。



- ② 2/13旋削部門の品質会議で、切粉の飛散が議題と上がり、特に目に入ると重大に事故につながりかねない事を改め認識。フェイスシールドを着用し作業するなど事故防止に努めた。



・従来からの取り組み事例(継続中)

役員、従業員全員で自宅で使い古した、服やタオル等を持ち寄り油などを拭くウエスとして再利用しています。



・利用時のみの電気利用の徹底(継続中)

従業員食堂も今までにまして未利用時の消灯を社員全員が気をつけるようになりました。



□編集後記

2022年8月から本格稼働させたガス空調により、2023年度は夏場も冬場も作業環境が大幅に向上しました。社員の士気向上に繋がっています。また、2023年度は空調のメリハリのある利用を心掛けたことから、2022年度より使用量が減り、CO₂排出量も減らす事ができました。

エコアクション21の取組も社内各所に17のマークを貼ってから、電気の付けっ放しが無くなるなど、社員全員に自然と浸透してきている事を感じています。

当社の取引先は大手企業も多く、特に環境への取組や意識が高い企業が多く、あります。エコアクション21の取組を取引先にもっとアピールし、営業に活かしていく事が次なる目標だと考えています。